

1 目的

人権尊重の精神に基づき、人権感覚を磨き、人の痛みの分かる豊かな感性を培うと共に、人権が尊重される学校づくりに向けた具体的な態度や行動がとれる児童の育成を目指すことを目的とします。

2 内容

(1) hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

年間2回 hyper-Q-U検査を行っています。研修会で講師の奥山桂子先生から、検査結果の見方や学級や個々の児童の状態の把握の仕方や手だての例などについて学びました。その後、学級担任がクラスの児童一人一人と教育相談を行いました。

(2) ハンセン病の学習（6年生対象）

講師の先生を招き、ハンセン病についての話を聞くことで、差別や偏見について考え、人権についての理解を深めると共に、人権意識の向上を図りました。

(3) 授業力向上研修

年間3回、教職員の授業力向上研修を実施しました。講師の先生から児童が主体的に学ぶ力をつけることができる授業づくりについて教えていただきました。講師の先生の模範授業を参観したり、講話を聞いたりして授業での「めあて」や「発問」の重要性と、授業構成の工夫を教えていただきました。研修を通して学んだことを生かし、児童が「もっと学びたい」「次は何をするの」と前向きになる授業づくりを目指しました。

(4) 学級経営研修

年間2回、講師の先生をお招きして「学級開き」「学級じまい」をテーマに研修を行いました。「担任と児童」「児童と児童」が互いに信頼関係を築いていくための、ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターの方法を紹介していただきました。また、講師の先生に学級活動の模範授業をしていただき、ねらいのもち方や授業の展開について教えていただきました。学級の状態に合わせて継続した取組を行うことで、信頼関係を築き、安心して自分の力を発揮できる学級づくりに取り組みました。



【学級経営研修】

(5) 個に応じた支援・手だてのためのコンサルテーション

臨床心理士の先生をお招きして実施しました。学習や生活で困り感を抱えている児童について、学級内での様子を観察していただきました。そして、心理士の視点から該当児童の特性や「困り」の原因を教えていただき、各担任との懇談を通して有効と思われる手だてや支援の在り方を検討しました。専門的で具体的なアドバイスがいただけることで、各担任は自信をもって手だて・支援を講じることができ、児童にとってもよい効果が表れることで、個に応じた支援・手だてについての理解を深めることができました。

(6) あいさつ運動のロゴ入りティッシュの配付

「あいさつが飛び交う地域」を目指し、児童会で決めたテーマ「1秒で伝わる思いは無限大」を印刷したティッシュをあいさつ集会などで配付しました。

3 評価

(1) hyper-Q-U検査アセスメントに関わる現職教育研修

hyper-Q-U検査の結果から、学級や児童の実態を客観的に把握・分析した上で教育相談をすることで、個々の抱える悩みに応じた話や助言をすることができました。

(2) ハンセン病の学習（6年生対象）

小笠原博士の偉業について学ぶと共に、正しい知識をもたないことからおこる差別について、考える機会をもちました。そして、誰もが幸せに生きる権利をもち、それを侵害することは許されないという態度を養いました。

(3) 授業力向上研修

研修を通して、教職員が授業を行うにあたり、主体的な学びのためには、「めあて」や「発問」「補助発問」の工夫と精選が大切であることを共有することができました。



【授業力向上研修】

(4) 学級経営研修

よりよい人間関係を築く技術について、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの例を学ぶことができました。また、学級で教師と児童、児童相互の人間関係づくりを段階的に進め、クラス全員とかわりをもたせることについて、考えを深めることができました。

(5) 個に応じた支援・手だてのためのコンサルテーション

配慮が必要な児童について、児童の困り感や特性に応じた指導・支援の方法や教職員間の協力体制の在り方をより具体的に検討することができました。

(6) あいさつ運動のロゴ入りティッシュの配付

人権集会やペア活動、あいさつ運動のときに全校児童へロゴ入りティッシュを配付しました。その他にも、あいさつと関連付けて適宜配付しました。また、授業参観や学校訪問、学校運営協議会など、来校された方や地域の方にも配付し、学校の取組を紹介しました。

4 課題

自他のよさに気付き、そのよさが自他のために発揮されるように知識のみにとどまらず、日常生活の中で、継続的・実践的な態度や行動として根付くように環境を整え、人権教育を進めていくことが課題です。

1 目的

専門的な知識・技術をもつ講師を招いて、外部人材の教育力を取り入れた教育活動を推進します。

2 内容

(1) 刷毛の先生（4年生対象）

地域の伝統産業である刷毛づくりについて、実際に携わる方からお話を聞きました。実物を見せていただきながら工程やそれにかかる努力や工夫について学びました。

(2) そろばん教室（3年生対象）

講師の先生をお招きし、そろばんの指使いに気を付けたり、速さを意識したりしながら、夢中になって取り組み、体験を通してそろばんの楽しさを学びました。

(3) 書き方・書写教室（1・3年生対象）

書写コンサルタントの先生を講師にお招きし、1年生は硬筆、3年生は毛筆の学習をしました。楽しみながら、字を書くことの高さや書き方のコツ、えん筆や毛筆の使い方などを学びました。



【書き方・書写教室】

(4) 特別支援学級 生活単元音楽療法

自立活動の授業において、生活面で必要とされる技能の習得を図りました。音楽療法では、音楽療法士の先生を講師にお招きし、音楽を通して自分を表現し、人とのコミュニケーションの取り方について学びました。

(5) 縄跳び教室（1、3、5、6年生対象）

日本縄跳びプロジェクトから4名の講師をお招きし、縄の持ち方、ジャンプの仕方、跳び方のコツを教えてもらい、様々な技にチャレンジしました。専門の方に教えていただいたことで、納得しながら取り組みました。

3 評価

(1) 刷毛の先生（4年生対象）

刷毛づくりやそれに携わる人たちの思いを知り、自分の住む地域の特色やよさについて考えを深めることができました。

(2) 特別支援学級 生活単元音楽療法

級友と一緒に楽器を鳴らしたり、音楽に合わせて踊ったりする中で、コミュニケーションの取り方や生活に必要な技能について学ぶことができました。

(3) 書き方教室（1、3年生対象）

書写について楽しく学習することができました。美しく字を書くコツ、文字の成り立ちなどを分かりやすく学び、文字への意識を高めるよい機会になりました。

(4) そろばん教室 (3年生対象)

そろばんについての知識やそろばんの活用の仕方について、体験を通して学ぶことができました。そろばんの楽しさや便利さに触れ、主体的に学習に取り組む一助となりました。

(5) 縄跳び教室 (1、3、5、6年生対象)

縄跳び教室の講師から、縄の基本的な使い方、縄を使った新たな運動などを教えていただいたことにより、縄跳びの世界が広がりました。体育の時間に継続して行うことで、体力づくりによい効果がありました。



【縄跳び教室】

4 課題

専門的な知識や経験に基づいた講師の方のお話や講習は説得力があり、児童・職員の学びにつながりました。本校の児童に必要な専門的な知識と技能をもった方々をさらに発掘し、地域の方をどのように学校教育へ参加していただくのが今後の課題です。

『豊かな人間関係を築く、異学年交流ふれ合い活動』

あま市立甚目寺東小学校

1 目的

「ペア学年でふれあい活動」を通して、異学年の交流の活性化を図り、仲間意識を高めます。その活動の中で、助け合い、認め合い、思いやり、相手への感謝が養われ、児童の人権が尊重される学校づくりに向けて具体的な態度や行動がとれる実践力を、養うことを目的とします。

2 内容

「ペア学年ふれあい活動」では、1・6年生、2・4年生、3・5年生がペアとなり、普段はなかなか一緒に遊ぶ機会のない、異学年で交流しました。上級生は、下級生の子のお世話をしたり、教えてあげたりするよい機会となりました。下級生は上級生に教えてもらいながら、楽しい時間を過ごしました。



【ペア学年ふれあい活動】

3 評価

「ペア学年ふれあい活動」の内容やルールを工夫し、休み時間に実施することができました。また、内容やルールを決めるにあたり、児童が主体的に計画・実施することで、相手の立場を思いやり、助け合いながら、学年の垣根をこえて交流を深める姿が見られました。

4 課題

今後、更なる「ペア学年ふれあい活動」の発展に向けて、人権意識に基づく他者の立場を思いやって立案・計画を進めていく力、協力して活動しようとする態度を養うのみならず、活動場所や道具などのソフト面での充実を図っていくことも課題です。